



◆◆ 2学期～様々な行事が行われました ◆◆

コーラス部 ♪子どもたちへのエールを込めて歌いました♪



今年度は在校生保護者 35 名、先生方 6 名、OB 10 名、合計 51 名が参加し、桜城文化祭で、子どもたちへのエールをこめて「手紙」「祖国の土」の2曲を歌いました。

参加された方からは「皆さんの雰囲気がとてもよくて練習が楽しかった」「歌うたびにうまくなっていくような気持ちになった」「子どもたちと同じステージに立つということで共通の話題ができて、よいコミュニケーションができた」「先生方とお話できる機会となり、大切な時間だった」「男声パートの充実、素晴らしい指揮者で本当に気持ちよく歌うことができた」などの感想をいただきました。皆さんのおかげで楽しいコーラストイムを過ごすことができましたことに感謝申し上げます。来年度も一人でも多くのPTA会員のみなさまと合唱の醍醐味を味わうことができるとを願っております。(高倉)

天文部 ★ミニ講習会を行いました★



11月30日(金)に「きささげ天文部」(きささげ:PTA広報誌名)の活動を行いました。当日はあいにくの天気で、予定していた天体観測ができませんでしたが、ミニ講習会を室内で開催。雨天にも関わらず、7組15名の生徒・保護者の皆さんからご参加いただくことができました。

18:30~20:00の時間ではありましたが、いろいろと学校では習わないような天体の知識を教えていただき、参加者の方も楽しみながら、より天体に興味を持ってもらえたことと思います。

金環日食の観察では100名を超える保護者・生徒からご参加いただきましたし、今回も11組22名の申し込みを頂くことができました。次年度以降も多くの方からご参加頂きたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。(松木)

教養委員会 お菓子づくり講習会



レ・ドゥーの歌代様をお招きして、スフレチーズケーキとショコラの焼き菓子を作りました。43名の方が参加。学年を越えて親睦が深められ、楽しい時間を共有できました。

2学年「進路を考える会」

87名の保護者と2年生全員が参加し、地域企業の代表、大島誠様からご講話いただきました。「進路を考えることは‘どう生きるか’を考えること」「最高の自分を知るために学ぶ」など、大人の私たちにとっても深く心に響くお話でした。卒業生の方々からのメッセージと合わせ、遠くも近くも視野に入れた進路を考える貴重な会となりました。



野球部 秋季親睦大会優勝!

「優勝!」最高の形で1年を締めくくることができました。今年度は天候に恵まれず、思うように練習ができませんでしたが、今年こそはと決起会にて気合を入れて臨んだ市P連中部ブロック野球大会。結果は、1勝1敗で惜しくも決勝には進めませんでした。しかし10月の秋季親睦大会において強敵、大手町小、城東中に勝利し、念願の優勝を飾りました。ここ数年は、少し悔しい思いの懇親会でしたが、今年はより楽しいお酒になりました。夏の大会は、雨による順延、グラウンド不良の中、また秋の大会はあいにくの強風の中、部員の皆様、お疲れ様でした。一つ一つのプレーと一緒に盛り上がり、最高の結果も残せて、本当に感謝しております。また先生方、役員の方々、応援していただいた皆様、ありがとうございました。(佐藤)



PTA親子講演会×プレイバックシアター公演の鑑賞



テーマは、「プレイバック
中学校生活あれこれ」

司会：テストが終わりました。今、どんな気持ち？
生徒：試験終わった～(*^_^*)。でもまた勉強しなくては(>_<)。
司会：では、その気持ちを見てみましょう。

「部活で***で***で***で大変なんです」という体験のストーリー

話した気持ちは、
即座に演じられます。

11月15日(木)横浜から劇団プレイバックアーツをお招きして、プレイバックシアターを鑑賞しました。プレイバックシアターとは、観客から聞いた体験や気持ちを即座に演じる台本なしの即興劇です。

どの学年も生徒が体験を積極的に語り、他の生徒もその話を一生懸命に聞いていました。語られた体験や気持ちは即座に劇になりました。それはとても楽しく、驚きと感動でした。子どもたちは、友達の体験や気持ちを知り、共感できたようでした。保護者も、子どもたちの日常生活をうかがうことができました。(岩崎)



物怖じせず気持ちを話したり、友達の話を熱心に聞いたりする生徒の様子を見た劇団の方からは、「素直な子どもたちですね」「いい環境で学校生活を送っているんですね」との感想をいただきました。

考えてみませんか？防災のこと ～全附P連に参加して～

二日間にわたり開催された全附P連研修会。

一日目の午後は、当校藤岡校長先生と並ぶ「防災教育」の専門家である片田敏孝先生のご講演。この講演に先立ち、「我が校・我が家で実践されている防災教育について」というテーマで、グループディスカッションが行われました。

特に考えさせられたのは、岩手大附属(盛岡)と茨城大附属(水戸)の保護者の方が話された内容です。

3.11 東日本大震災では、津波の直接的な被災地ではなかったものの、地震による被害の結果、電気が使えない状況になり、大学のサーバーもダウン。普段は何気なく使っている“有事の際”に使用するための緊急メールですが、それも使えず、一番知りたい情報が入らない状態に陥ったとのこと。子どもたちの置かれている状況、学校からの生徒たちに対する指示や対応なども全く把握できない状態になり、大変なご苦労があったという体験談を聞かせていただきました。

緊急メールは「必ず届くもの」と思っていたのですが、いざというときは決してそうではないですね。

まずは、各家庭において、有事の際の下校ルートの確認や細かな約束事やルールなどを決めておく必要があると、痛切に感じた次第です。(内山)

私のグループでは、各校の取り組みを聞きました。防災意識の高さに感服。以下、他校の取り組みです。

- 公共交通機関や車が使えなくなったら…、親子でシミュレーションして、子どもが家まで歩いて帰る訓練を年1回している。
- 七夕に『ライトダウン』のイベントを。電気を全部消して、ランタンの灯りだけで過ごす日にしている。
- 65年続く伝統行事…全校でキャンプ！自力でテントを張る。穴を掘ってみる(使用はしないがトイレ用)。非常食を食べる。

静岡大付属の副校長先生の言葉が印象的でした。「防災ではなく『減災』。災害が起きたとき、どれだけ被害を減らせるかを考えている」と。(下村)

【編集後記】プレイバックシアターの公演で、語られたストーリー(気持ちや体験)は、どの学年も何気ない日常の学校生活のことでした。何気ないけれど、そこに喜びがあり、悩みがあり、後悔があり、感謝があり、感動があり…『若い』っていいなあとうらやましくなりました(#^_^#) (下村)